

胸部外科学会創立当時の思い出

武 田 義 章

昭和23年5月1～3日新潟大学医学部で今は亡き中田瑞穂先生御主催の下に、第48回日本外科学会が開催された。その時5月2日に当時肺結核の外科的療法を行って居る者に召集がかかり、米国の *Journal of Thoracic Surgery* があって、多数の胸部外科及びその周辺の論文が掲載されている如く、日本でも胸部外科の学会と研究発表の機関誌を持ちたいが、どう思ふか、と話の中核が発表され、吾々は直ちに賛同した。

それより先に昭和23年2月に京大、阪大、京府大の先生方の相談の上、京大で第1回肺結核外科懇談会が開催された。東京でも同様な研究会が持たれている為、日本胸部外科学会は容易に産れ、昭和23年11月3日に胸部外科研究会の名称の下に東大の講堂で開催された。この時は大槻先生が会長であった。第2回は京都大学で青柳先生会長の下に、10月16、17の両日に、会の名称も日本胸部外科学会として、研究発表が行われたが、肺結核の外科的療法に関するもののみであった。今日に於ける胸部外科学会の研究発表と較べると、医学の進歩の足跡が明瞭にわかる。

なお学会の機関雑誌は南江堂の胸部外科を代用していたが、第5回武藤完雄先生に仙台で日本胸部外科学会を主催して戴いた時に、機関誌は独立して持つべきであるとして、現在の日本胸部外科学会雑誌が発刊された。
(大阪大学名誉教授)